

漢文『刎頸の交わり（廉頗と藺相如）』定期テスト対策問題 | 書き下し・現代語訳・  
句法の頻出設問と解答

組 番 氏名

/100点

本文

【白文】

廉頗曰、「我為趙將、有攻城野戰之大功。①藺相如徒以口舌為勞、而位居我上。」宣言曰、「②我見相如、必辱之。」（中略）  
相如曰、「③夫以秦王之威、而相如廷叱之、辱其群臣。④相如雖驚、獨畏廉將軍哉。（中略）  
⑤今兩虎共鬪、其勢不俱生。⑥吾所以為此者、以下先國家之急、而後中私讎也。」  
⑦廉頗聞之、肉袒負荊、因賓客、至藺相如門謝罪。曰、「⑧鄙賤之人、不知將軍寬之至此也。」  
⑨卒相與歡、為刎頸之交。」

【書き下し文】

廉頗曰はく、「我趙の將と為り、攻城野戰の大功有り。①藺相如は徒（た）だ口舌を以て勞を為して、而して位我が上に居り。」と。宣言して曰はく、「②我相如を見ば、必ず之を辱めん。」と。（中略）

相如曰はく、「③夫（そ）れ秦王の威を以てして、相如之を廷叱（ていしつ）し、其の群臣を辱む。④相如驚（ど）なりと雖（いへど）も、独り廉將軍を畏れんや。（中略）⑤今兩虎共に鬪はば、其の勢ひ俱（とも）には生きず。⑥吾の此を為す所以（ゆゑん）の者は、國家の急を先にして私讎（ししう）を後にするを以てなり。」と。

⑦廉頗之を聞き、肉袒（にくたん）して荊（けい）を負ひ、賓客（ひんかく）に因りて、藺相如の門に至り

罪を謝して曰はく、「⑧鄙賤（ひせん）の人、將軍の寛なることの此に至るを知らざるなり。」と。

⑨卒（つひ）に相与（あひとも）に歡びて、勿頸の交はりを為す。

※本文は頻出箇所を中心に編集しています（版により細部の表記が異なる場合があります）。（中略）部分のあらすじ：②の宣言を聞いた相如は、病氣と称して朝廷に出ず、道で廉頗を見かけると車を引き返して隠れ、顔を合わせることを避けた。これを恥じた家来たちが「おいとまをいただきたい」と諫めたのに対し、相如が答えたのが③以下の言葉である。また④と⑤の間で相如は「強い秦が趙に攻め込んでこないのは、我ら二人がそろっているからだ」と述べている（設問7・9参照）。傍線部の番号は設問に対応しています。

## 設問

- 傍線部①「藺相如は徒だ口舌を以て勞を為して、而して位我が上に居り」について、次の問いに答えよ。
  - (1) 「徒」の読みを、送り仮名を含めてひらがなで答えよ。また、その意味を答えよ。
  - (2) 「口舌」とは、相如のどのような働きを指して言ったものか。簡潔に答えよ。
  - (3) この部分を現代語訳せよ。
  - (4) このように言う廉頗の不満はどのようなものか。「大功」という語を用いて説明せよ。
- 傍線部②「我見相如、必辱之」について、次の問いに答えよ。
  - (1) この部分を書き下し文に直せ。
  - (2) 「之」は誰（何）を指すか。
  - (3) 全体を現代語訳せよ（「見ば」が仮定の言い方であることに注意すること）。
- 廉頗の宣言を聞いたあとの相如の行動（病氣と称して朝廷に出ない・車を引き返して隠れる）を、相如の家来たちはどのように受け止めたか。最も適当なものを次から選べ。  
ア 主君の深い戦略だと感心した　イ 主君が廉頗を恐れて逃げ隠れしていると思い、恥じた　ウ 主君の病気を心配した　エ 主君の高い徳義のあらわれだと誇りに思った
- 相如をいさめた家来たちの言葉「臣の親戚を去りて君に事（つか）ふる所以の者は、徒だ君の高義を慕へばなり」（書き下し）について、次の問いに答えよ。
  - (1) 「所以」の読みをひらがなで答えよ。
  - (2) 「所以」のここでの意味を答えよ。
  - (3) この一文を現代語訳せよ。
- 同じく家来たちの言葉「且（か）つ庸人すら尚（な）ほ之を羞づ。況（いは）んや將相に於いてをや」（書き下し）について、次の問いに答えよ。
  - (1) 「Aすら尚ほ～、況んやBをや」が表す句法の名称を答えよ。
  - (2) この一文を現代語訳せよ。
  - (3) 「庸人」の意味を答えよ。
- 傍線部③「夫以秦王之威、而相如廷叱之、辱其群臣」について、次の問いに答えよ。
  - (1) 「之」は誰を指すか。
  - (2) この部分を現代語訳せよ。

- (3) これは、前編「完璧（帰趙）」で相如が行ったどのような出来事をふまえた言葉か。簡潔に説明せよ。

7. 相如は家来たちに「公之視廉將軍、孰与秦王」（書き下し：「公の廉將軍を視ること、秦王に孰（いづれぞ）」と問いかけた。次の問いに答えよ。

- (1) 「孰与（いづれぞ）」が表す句法の名称を答えよ。
- (2) この問いかけを現代語訳せよ。
- (3) 家来たちの答え「不若也（若かざるなり）」はどのような意味か。

8. 傍線部④「相如雖驚、独畏廉將軍哉」について、次の問いに答えよ。

- (1) この部分を書き下し文に直せ。
- (2) 「雖（いへども）」の意味・用法を答えよ。
- (3) 「独～哉」の句法の名称を答え、この部分を現代語訳せよ。
- (4) 「驚」のもとの意味と、ここでの働き（ニュアンス）を答えよ。

9. 相如の言葉「強秦の敢（あ）へて兵を趙に加へざる所以の者は、徒だ吾が兩人の在るを以てなり」（書き下し）について、次の問いに答えよ。

- (1) 「敢へて～ず」の意味を答えよ。
- (2) 「吾が兩人」とは誰と誰のことか。
- (3) この一文を現代語訳せよ。

10. 傍線部⑤「今兩虎共鬪、其勢不俱生」について、次の問いに答えよ。

- (1) この部分を書き下し文に直せ。
- (2) 「兩虎」は何をたとえたものか。
- (3) 「不俱生」に用いられている否定の種類（全部否定か部分否定か）を答えよ。
- (4) 全体を現代語訳せよ。

11. 傍線部⑥「吾所以為此者、以先國家之急而後私讎也」について、次の問いに答えよ。

- (1) この部分を書き下し文に直せ。
- (2) 「此」はどのようなことを指すか。具体的に答えよ。
- (3) ここでの「先」「後」はどのような働きで使われているか。品詞（用法）にふれて説明せよ。
- (4) 全体を現代語訳せよ。

12. 傍線部⑥にあらわれた相如の生き方・態度を表す語として最も適当なものを次から選べ。

ア 私利私欲 イ 滅私奉公 ウ 付和雷同 エ 温故知新

13. 傍線部⑦「肉袒負荊」について、次の問いに答えよ。

- (1) 読みをひらがなで答えよ。
- (2) 「肉袒」とはどうすることか。
- (3) 「負荊」とはどうすることか。また、それは何を伝えるための行動か。

14. 「賓客に因りて、藺相如の門に至り罪を謝す」について、「因りて」のここでの意味を答えよ。

15. 傍線部⑧「鄙賤之人、不知將軍寬之至此也」について、次の問いに答えよ。

- (1) この部分を書き下し文に直せ。
- (2) 「鄙賤の人」とは誰のことか。その言い方の効果にもふれて答えよ。
- (3) 「將軍」とは誰を指すか。
- (4) 全体を現代語訳せよ。

16. 傍線部⑨「卒相与歎、為刎頸之交」について、次の問いに答えよ。

- (1) この部分を書き下し文に直せ。
- (2) 「卒」の読みと意味を答えよ。
- (3) 全体を現代語訳せよ。

17. 「刎頸の交わり」とはどのような交友をいうか。「刎頸」のもとの意味（字義）にふれて説明せよ。

18. 本文中の「為」について、次の問いに答えよ。

- (1) 次の「為」の読みを、送り仮名を含めてそれぞれひらがなで答えよ。  
(a) 我為趙將の「為」 (b) 為勞の「為」 (c) 為此の「為」 (d) 為刎頸之交の「為」
- (2) (a)と(b)の「為」の意味の違いを説明せよ。

19. 同じ『史記』に由来する友情の故事成語「管鮑（かんぼう）の交わり」と「刎頸の交わり」とでは、表す友情の性質にどのような違いがあるか。説明せよ。

20. この文章の出典について、次の問いに答えよ。

- (1) 出典の書名を漢字で答えよ。
- (2) (1)の著者名を漢字で答えよ。
- (3) (1)が成立した時代（王朝名）を答えよ。
- (4) (1)に用いられている、本紀・列伝などから成る歴史の記述形式を何というか。漢字で答えよ。

21. 本文の内容に合うものを、次から一つ選び、記号で答えよ。

ア 相如は廉頗の武力を恐れていたため、ひたすら隠れて時が過ぎるのを待った。 イ 相如は国家の利益を個人的な恨みより優先して衝突を避け、それを知った廉頗が心から謝罪し、二人は固い友情を結んだ。  
ウ 廉頗は最後まで相如を許さず、二人は対立したままだった。 エ 趙王が二人に命令して、無理やり和解させた。

22. 地位も体面も捨てて自分から謝罪した廉頗の行動について、あなたはどうか考えるか。本文の内容にふれながら六十字程度で書け。